



それは、どん底から目覚めた僕が見つけた、最高の喜び

# AWAKE

アウェイク

吉沢亮 若葉竜也

落合モトキ 寛一郎 / 馬場ふみか 川島潤哉 永岡佑 森矢カンナ 中村まこと

監督・脚本:山田篤宏

天才に敗れ、プロになる夢を諦めた英一。

数年後、<最強将棋ソフト開発者 VS 若手強豪棋士>としてかつてのライバルと再戦を果たすことになるが——  
実際の対局から生まれた、感動の青春物語。



辞めたあと、何をしたらいいのかわからなかった。  
でも、もし誰も思いつかないような自由な将棋を指すプログラムを育てることができたら——  
将棋を辞めたことにも意味があるかもしれない。



大学生の英一は、かつて奨励会(日本将棋連盟の棋士養成機関)で棋士を目指していた。同世代の圧倒的な強さと才能を誇る陸に敗れた英一は、プロの道を諦め、普通の学生に戻るべく大学に入学したのであった。幼少時から将棋以外何もしてこなかった英一は、急に社会的になれるはずもなくごちない学生生活を始める。そんなある日、ふとしたことでコンピュータ将棋に出会う。独創的かつ強い。まさに彼が理想とする将棋を繰り出す元となるプログラミングに心を奪われた英一は、早速人工知能研究会の扉をたたき、変わり者の先輩・磯野の手ほどきを受けることになる。自分の手でソフトを強くしたい——。将棋以外の新たな目標を初めて見つけ、プログラム開発にのめり込む英一。数年後、自ら生み出したプログラムを<AWAKE>と名付け、コンピュータ将棋の大会で優勝した英一は、棋士との対局である電王戦の出場を依頼される。返答に躊躇する英一だったが、相手が若手強豪棋士として活躍するかつてのライバル、陸と知り——。

2015年、当時ネットユーザーや将棋ファンの間で物議を醸した棋士 VS コンピュータの対局に着想を得て、第1回木下グループ新人監督賞グランプリを受賞し、本作が商業映画デビューとなる山田篤宏監督が書き下ろした完全オリジナルストーリー。

吉沢亮 若葉竜也  
落合モトキ 寛一郎 / 馬場ふみか 川島潤哉 永岡佑 森矢カンナ 中村まこと  
監督・脚本:山田篤宏

製作総指揮:木下直哉 エグゼクティブプロデューサー:武部由実子 プロデューサー:菅野和佳奈 アソシエイトプロデューサー:新野安行 音楽:佐藤聖 撮影:今井哲郎 照明:酒井隆英 録音:渡辺大彦 美術:小坂健太郎 装飾:櫻井啓介 衣裳:松下麗子ヘアメイク:小坂美由紀 音響効果:渋谷圭介 効果:豊直康 PC画面制作:北郷宏行 演技事務:平敷明香 助監督:五藤隆 制作担当:米田伸夫 音楽プロデューサー:杉田寿宏 ラインプロデューサー:氏家英樹 将棋協力:日本将棋連盟 将棋電王戦協力:dwang DENSO DENSO WAVE プログラム協力:コンピュータ将棋協会(CSA) 製作:木下グループ 制作協力:ザワーク 制作・配給:Netflix

awake-film.com @awake\_eiga2020 @awake\_eiga2020

12.25 FRI. ROADSHOW

11.13(金)より販売開始予定! 1,500円(税込)(当日一般¥1,900の値)





行ったことのないステージに立ちたくて、全てをそれにつき込んでいく。そのことの価値を分かち合える人がいることの幸福。

男と男が見つめ合うだけでグッとくるシーンが溢れている。

しかもそれが吉沢亮だからずるい。ずるいけど、とっても嬉しいです。

——犬童一心さん(映画監督)

何をやっても鈍臭い僕は「勝ち負けのない世界」に行きたいとよく考えていました。

ただ、勝ち負けのない世界に行くためには勝ち続けなくちゃいけないことが辛かった。

でも、こんな方法があったんですね。AWAKEと出会えて良かった。

——歌広場淳さん(ゴールデンボンバー)

# AWAKE

# 目が覚める。眠りから起きる。覚醒。

将棋と人工知能のどちらの「オタク心」も満足させる、絶妙な脚本にうなった。徹底的にリサーチして見応えのある映画に結実させた山田篤宏監督の深い芸術愛にリスペクト。

脳が目覚める傑作です。

——茂木健一郎さん(脳科学者)

目が覚めたら吉沢亮さんになっていますように、と願ったことがあります。

だけど映画を見て、強い誰かになるのではなく、

自分の強さを見つめることが大切だと学びました。でも、吉沢亮さんにはなりたくて。

——実家が全焼したサノさん(インフルエンサー)

私はアイドル時代何を頑張ったらいのか道に迷っていた時「将棋」に出会い、私のアイドル人生は充実したものになりました。

この映画では暗闇に迷い込んだとしても、一筋の光を信じて頑張ることの大切さが改めて学べました。

——伊藤かりんさん(タレント/将棋親善大使)

理系人間の挫折と成功を描く本作。ラストシーンは万感胸に迫るような展開。まさか、将棋人工知能が

ここまで魅せるなんて! 情報技術をもう少し身近に感じてもらいたい。本作は様々な人々に覚醒を促す。

——保木邦仁さん(電気通信大学准教授・コンピューター将棋Bonanza開発者)

## 夢の終わりは人生の結末じゃない。プロへの道を諦めた英一が、冴えない大学生活で見つけた常識破りの挑戦とは——!?

主人公・英一を演じるのは、飛ぶ鳥を落とす勢いの俳優・吉沢亮。共演に、若手実力派・若葉竜也、幅広いジャンルで活躍する落合モトキ、映画・ドラマ界の注目を集める寛一郎。更に、馬場ふみか、川島潤哉、永岡佑、森矢カンナ、中村まことら、確かな実力を持つ面々が顔を揃える。監督は山田篤宏。2015年の将棋エンタテインメント「電王戦」に着想を得た(★)本作は、第1回木下グループ新人監督賞グランプリに輝く自らのオリジナルシナリオを映画化した記念すべき本格的劇場映画デビュー作となる。

プロになれなかった男と天才との戦いの興奮、緊張感を将棋が分からない人にも伝え、それぞれの苦悩や葛藤を見つめながら、将棋の世界で

棋士とコンピュータが真剣勝負を演じた時代、私たち将棋愛好者がリアルタイムで目の当たりにした「AWAKEの悲劇」。

その歴史的背景をふまえながら熱い人間ドラマが描かれた傑作です。

——松本博文さん(将棋ライター)

プライドをへし折られ、絶望の淵に立たされた男たちを見てきた私は、彼らから勇気をもらった。

そして、この映画の主人公は、彼らと同じように、私に勇気をくれた。

——小杉康夫さん(TBS「プロ野球戦力外通告」「バース・デイ」総合演出)

人間の血汐が勝つか。AIの冷徹が勝つか。だが、これは前哨戦に過ぎない。

AIが我々の全てを超えたとき、何が起きるのか。それを問われているのだ。

——志茂田景樹さん(作家・よい子に読み聞かせ隊長)

この物語の核にあるのは「肯定性」だ。ふたりの天才。宿命のライバル。勝ち負けの向こう側。

幾度も語られてきた神話的な青春譚の盤上で、定跡にとらわれない新しい手を指そうとしている。

——森直人さん(映画評論家)



良い脚本に良い演出、良い撮影に良い役者。「AWAKE」を観ていて面白い映画を作るには、ただただ真摯に丁寧に作ってあげればいいんだ、という当たり前のことに気付かされました。

ほとんど会話を交わさない二人の男の物語で、

こんなにもドラマチックな映画になるなんて…。目が覚めました! 明日から頑張ります。

——山下敦弘さん(映画監督)

夢を叶えた一人の後ろに、夢に破れたたたくさんの人がいる。心の中にある何かを奮い立たせる映画でした。夢に破れ、負け癖がついてしまっていた十代の頃の私に、この映画をみせてあげたい。

——山本さほさん(漫画家)

<順不同>

一度は挫折した英一が新たな夢を見出し、再生する姿を映し出す。人づきあいが苦手で、人間としても未熟だった彼がプログラミングを通して成長していくそのドラマは、挫折が人生の結末ではないこと、自分が信じるものや好きなことと真摯に向き合えばいつかきっと道が拓けるということを見せてくれ、ひたむきに生きているあなたの背中をそっと押してくれるに違いない。

★・・・2015年に行われた将棋電王戦FINAL第5局、阿久津主税八段 VS AWAKE戦。開始からわずか49分、21手という異例のスピード決着となった。将棋プログラム・AWAKEの開発者は、元奨励会員という経歴の持ち主、また、棋士の手がコンピュータの弱点をついたものであったことから、当時、ネットユーザー、将棋ファンの間で物議を醸した。